

令和6年度羽島市教育委員会点検評価委員会 会議要旨

日 時	令和6年8月7日（水） 15時00分～16時28分
場 所	羽島市役所本庁舎 4階 第1委員会室
出席者	<p>【委員】 棚野委員長、坂井副委員長、下野委員、木村委員、小林委員</p> <p>【事務局】 森教育長、不破事務局長、小川教育政策課長、稲葉同施設担当課長、山田同施設担当課長補佐、岡田同課政策係長、高橋学校教育課長、長江同課長補佐、近藤教育支援センター所長補佐、安藤西部幼稚園長、竹内北部学校給食センター所長、亀山南部学校給食センター所長</p> <p>【傍聴】 無し</p>
内 容	<p>1 委嘱書交付</p> <p>2 開会</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 委員長・副委員長選出 ・棚野委員長、坂井副委員長を選出</p> <p>5 議事 ・羽島市教育委員会の令和5年度の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価</p> <p>事務局から資料を用いて説明を行う。</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度時点の基準値がないものがある。2022年度の数値を記入するとよい。 (2-2(1)1人1台タブレット端末を活かした個別学習や協働学習の実現) ・全国学力・学習状況調査の質問紙の数値から2023年度の「報告値」を出しているということは、全国学力・学習状況調査を受ける児童生徒は毎年異なっているのか。 (1-1(1)いじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期対応の徹底) <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査を受ける児童生徒は毎年異なる。対象は、市内学校の小学校6年生及び義務教育学校6年生、中学校3年生及び義務教育学校9年生である。 ・2023年度に全国学力・学習状況調査を受けた児童生徒は、それぞれ約600名である。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度に回答した児童生徒の数値と2023年度に回答した児童生徒の数値を単純に比較するのは、難しさがあり、全国の状況等と見比べながら、注目していく必要がある。 (1-1(1)いじめや問題行動の未然防止、早期発見・早期対応の徹底) <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度に比べて2023年度数値が下がった理由が、コロナ禍を含む世の中や社会の

変化であるならば、今後社会の変化に応じて「目標値」も見直す必要はないのか。

(3-1(1)家庭教育に関する学習機会の充実と参加促進)

【事務局】

- ・社会情勢によって「目標値」を変更すると、計画（指標）に対する数値の変動が読み取りにくいいため、現在のところ「目標値」の変更は考えていない。

【委員】

- ・「目標値」はどのように決めているのか。

【事務局】

- ・設定時の2019年度、2020年度の児童生徒、教育委員会等の実情を踏まえて決定している。

【委員】

- ・中学校で実施している休日運動部活動の地域移行では、あらゆる競技が移行しているのか、あるいは一部の競技の移行か。

(2-5(2)部活動の活性化)

【事務局】

- ・令和5年度は市内の3つの中学校の休日運動部活動が地域移行している。令和6年度より市内の全ての中学校及び義務教育学校の休日の運動部活動が移行した。休日は、学校が部活動の指導をすることはしない。

【委員】

- ・「目標値」の設定は、全国や県の数値と比べた上での羽島市の「目標値」を設定していると説明の際に補足するとよい。
- ・例えば、人権教育については、児童の「報告値」は増加しているのに対して、生徒の「報告値」は減少している。しかしながらコロナ禍の影響もあり、これは全国的な傾向かもしれない。単純に上がった、下がっただけにとらわれるのではなく、内容や数値（指標・報告値）によっては、全国や県と比較して、羽島市の実情等を説明する必要がある。

(1-1(3)人権教育の推進)

- ・地域との関わりについての指標の中で羽島市は、「目標値」を70.0%に定めているが2023年度の「報告値」は、72.2%となっている。72.2%という数値は、全国的にも非常に高いと思われる。そういったことが説明できるように、全国のデータの平均値や傾向なども把握しておくとうい。
- ・羽島市の教育活動のみでもコミュニティ・スクールをはじめ、地域と連携した活動が豊富であり、その成果が「報告値」に表れている。

(2-1(1)地域との関わりを大切にした、円滑かつ効果的な「子どもが主役となる」活動の実施)

【事務局】

- ・全国学力・学習状況調査の質問紙を参考にした「報告値」は、対象の児童生徒が異

なるため、学年による実態の差がある。

- ・岐阜県の平均値を踏まえた上での「目標値」を設定している。
- ・ICT 関係については、全国と比較してもかなり高い数値となっている。

【委員】

- ・学校施設に関わって、「報告値」が 100%という部分を見ると、「目標値」を達成しているように見受けられるが、令和 6 年度の実施計画は、指標を含まない内容になっているのか。
- ・実施計画の記述が長寿命化の改修工事であることがわかるようになるとうい。

(1-3(1)これからの学校のあり方を踏まえた学校施設の長寿命化改修の推進)

【事務局】

- ・「報告値」の 100%は、市内の小中学校及び義務教育学校について、既に段差解消が行われているという意味である。
- ・多目的トイレも同様に、市内の小中学校及び義務教育学校への多目的トイレの設置率を示した割合である。
- ・令和 6 年度の実施計画は、指標を含んでいない。指標とは別に学校の老朽化等に対応する内容を記載している。
- ・学校施設はバリアフリー化だけが工事ではなく、長寿命化の改修工事もあるため、書きぶりについては検討する。

【委員】

- ・成果指標がある項目とない項目がある。このあたりの基準はあるか。
- ・成果指標に数字を用いるのはよいが、誤解を招く場合もあるため、載せ方について確認するとよい。

【事務局】

- ・これまでの点検評価は、文章での自己評価だった。教育振興基本計画を改めたとき指標を設定した方がよいということで指標を設定している。
- ・全ての項目に指標があるとよいが、指標が設定しにくい事業もある。そのため、重点施策の中で一つは、指標を位置付けている。
- ・次期教育振興基本計画を定める際の参考とする。

【委員】

- ・成果指標がない項目は、「計画」→「実施内容」→「次年度の計画」となる。「実施内容」と「次年度の計画」の間に何が課題なのかが明記されるとよい。

【委員】

- ・効果的なシステムアプリの導入の検討とあるが、その具体的な内容については表記する必要はないか。

(2-2(1)1 人 1 台タブレット端末を活かした個別学習や協働学習の実現)

(2-2(3)プログラミング教育の実施)

【事務局】

- ・現在は、羽島市は、自分の考えを仲間と共有できるアプリを授業等で活用している。
- ・今後は、生成 AI を用いた学びができないかと模索している。まだ検討段階のため、報告書に掲載はしない。

【委員】

- ・今後は、学校施設では、バリアフリーだけでなく、Wi-Fi 環境やエアコンの整備についても評価できるとよい。また、教職員に十分なタブレット端末等が行き届いているのか評価があってもよい。

【委員】

- ・子どもの意見を反映させたコミュニティ・スクールのあり方について、どのような活動をしているのか、もう少し具体的に教えてほしい。

(2-1(1)地域との関わりを大切にした、円滑かつ効果的な「子どもが主役となる」活動の実施)

【事務局】

- ・中学校区ごとに、小学生と中学生、地域の方々が今後の地域のあり方等について話し合う機会を設定している。
- ・例えば各校で取り組んでいた「あいさつ活動」を、中学校区で行っている。中学校区の子どもたちが同じ目的のもと取り組むことで地域や学校間のつながりも強くなる。

【委員】

- ・竹鼻中学校の学校運営協議会委員として、その会議に参加した。福寿小学校、竹鼻小学校、竹鼻中学校と地域の人が同じ思いを持って活動するよい機会になっている。初めて参加して、子どもたちが地域を巻き込んでよりよいものを生み出そうとしている姿に感心した。
- ・地域との関わりの「報告値」が 51.3%から 72.2%に増加しているのも納得できる。

(2-1(1)地域との関わりを大切にした、円滑かつ効果的な「子どもが主役となる」活動の実施)

【委員】

- ・教職員の働き方改革について、時間外の目標が月 80 時間未満となっている。一般企業と学校では職務内容も異なるが、管理職による見届けが大切である。
- ・80 時間は過労死ラインになるため、今後は、社会における一般的な通念に合うものになるとよい。

(1-1(7)教職員の働き方改革の推進)

- ・地産地消の施策がある一方で、成長期にある子どもたちが楽しく美味しく給食を食べられるような視点が必要ではないか。

(2-6(1)食に関する指導及び地産地消の推進)

【事務局】

- ・80 時間を超えた教職員については、学校だけでなく、教育委員会も話を聞く等のサポート体制をとっている。

- ・給食については、定められた栄養摂取量に沿って調理をしている。
- ・献立等については、物価高騰がある中で可能な限りの努力をしていく。

【委員】

- ・繰り返しになるが、地域との関わりに関する項目が72.2%と高いことは評価できる。
(2-1(1)地域との関わりを大切にした、円滑かつ効果的な「子どもが主役となる」活動の実施)
- ・ICT機器の環境の整備が整っており、学習に活用している数値が小学校で85.3%、中学校で96.5%と極めて高い成果が出ている。
(2-2(4)ICT機器の環境の整備)
- ・羽島市の英語科の先生方の取組み等（過去の全国学力学習状況調査の結果等）からも英語教育等を含む国際理解に関する取組みが充実していることがうかがえる。
(2-8(2)外国語教育を通じたコミュニケーション能力の育成)
- ・「地域理解」「情報教育」「外国語教育」という3つの観点に羽島市が特に力を入れて、先生たちが頑張ってきた成果が表れた資料になっている。この点検評価報告書が羽島市に関わる人たちのコミュニケーションのツールになるとよい。そして、先生たちの頑張りが成果になっていることを子どもたちと毎日向き合っている先生たちにも伝えられる報告書になるとよい。先生たちにも日々の指導が成果として形になっていることを実感してもらえるものになるとよい。

6 その他

7 閉会